

子供たちの豊かな育ちのために

鴨川市立鴨川小学校事務長 おぐま としこ 小熊 俊子



1 鴨川小の大運動会

絵に描いたような五月晴れとなった土曜日、2年ぶりの大運動会を開催した。

コロナ禍の中、昨年度の半年遅れの運動会は平日の半日に縮小した小さな運動会だったが、今年度は、子供たちの日常を取り戻した形での運動会を実施したいと考え、一日開催とした。

運動会のプログラムのメインの一つに「紅白選手リレー」がある。校長の発案により、昨年度に引き続き全教職員でリレーに参加した。「チーム鴨小」として、事務職員も含めた老若男女の教職員全員が一致団結して、子供たちに本気の走りを見せた。「全職員でリレーに参加することで、職員一人一人の所属意識を高めるとともに、児童や保護者に先生方がまとまっていることをアピールしたい」との校長の思いである。

運動会の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策を一番に考え、体育主任の計画をもとに、各学年種目の工夫、保護者の対応、感染予防対策に係る経費等を検討し、教職員全員がチーム一丸となって、運動会を成功させることができた。



2 チーム鴨小と事務職員

本校の経営方針には、「一人一人が自らの資質・能力の向上に努めながら、チームとして有機的に結びつき、保護者や地域住民等と連携・協働して、教育活動の質を向上させ、学校教育目標の達成を目指す」とある。

この方針の下、事務職員として、適正な業務の推進や課題解決、予算編成や環境整備、地域との連携など、チームの一員として専門性を生かしながら学校運営に参画し、学校教育目標の達成を目指している。

本校には事務室がない。職員会議や生徒指導会議も職員室で行っているため、チーム学校としての意識は今に始まったことではなく、常にチームの一員として教育活動の中で学校事務業務を行ってきた。

学校の窓口でもある事務職員には、遅刻や早退の連絡、生徒指導上の問題等の情報が随時入ってくる。保護者からの電話等の対応を最初に行うことが多い事務職員が、児童の状況を知った上で対応することは、初動をスムーズにし、事後指導・対応をプラスに作用させることにつながる。常にチーム鴨小の一員として、当事者意識をもって対応することを心がけている。

3 チーム学校における事務職員の取組

(1)鴨川小学校での取組

本校での勤務は2年目である。昨年4月に着任後、始業式の翌日から再び臨時休業となり、職員も分散勤務となった。2か月の臨時休業の間、業務を確認していく中で、鴨川小

